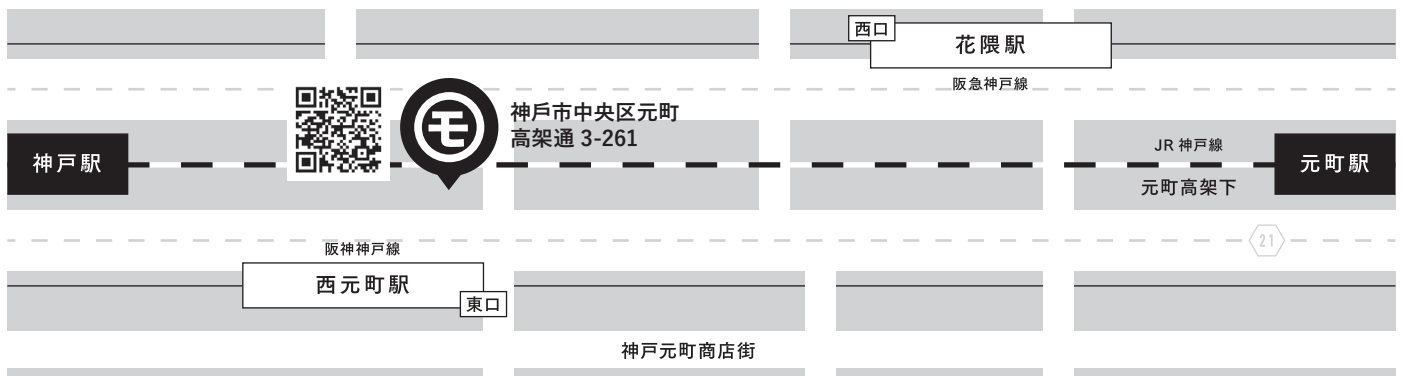


神戸市、元町高架下に地元アーティスト・クリエイターがつくる 「モトコーミュージアム」が開館します。

今年9月、兵庫県神戸市、元町高架下に「モトコーミュージアム」を開館します。
戦後、市民の生活に必要なものをいち早く取り揃え、日々の暮らしを豊かにしたモトコー。
高度経済成長時代、若者の夢を育み、港の発展を下支えしたモトコー。
多種多様な価値を生み出してきたモトコーへの想いを込め、
高架下にあるものを活用して歴史をオマージュ。アート化して立体的に展示します。

これまでの歴史に感謝と尊敬を込めて、未来へと繋ぐモトコーミュージアムをつくります。



なぜモトコーか？

モトコーは、戦前・戦後の暮らしや仕事を支える重要な場でした。ものやサービスに溢れかえった現代そして未来において、暮らしや仕事を豊かに支えるものはいったい何か？。未来をふたたびつくる舞台として、モトコーは相応しい場のひとつです。

なぜアートミュージアムか？

過去から現在のモトコーは、文献や資料を辿ることで見つけられます。では未来のモトコーはどうでしょうか？アートには、時間や空間を飛び越える力が内包されています。そんなアートの力を借り、モトコーが持つ場のポテンシャルを可視化します。

プロデューサー



入川ひでと 入川スタイル&ホールディングス 代表取締役社長兼CEO

東急沿線成長戦略、京王電鉄多摩センターエリアブランディング、UNIQLO原宿UT店舗プロデュース、六本木ヒルズTUTAYA TOKYO ROPPONGI店舗プロデュース。事業創造においては、(株)カフェカンパニー、(株)ダブリュースカンパニーなど「カフェが街をつくる」をコンセプトに日本全国の地域コミュニティを再生する事業を展開。神奈川県/大磯町、奈良県/東吉野、島根県/浜田市、兵庫県/神戸市、などでのコミュニティ再生をカフェなどの開発を通して実践している。青山学院大学、東京経済大学、東京首都大学、などで長期講座を持つ。テーマは「カフェを通じた地域コミュニティの再生」。ソーシャルワークとして「東北震災復興リーダー支援プロジェクト」、「東北起業家育成・事業構想支援プログラム」、などのメンターを長期に渡り実装。著作に「カフェが街をつくる」クロスメディアパブリッシング出版。

通常であれば、元の建物を壊し、新たな建物をたててからミュージアムをつくりますが、モトコーミュージアムは、歴史ある建物をそのまま活用し、過去の素材に手を加え新しいミュージアムをつくります。このこと自体がすごくあたらしい。歴史ある神戸モトコーで実装できることが、スクラップアンドビルドでここまで来た日本社会に大きな影響を与えるのではないかと思います。アートはもちろん、地域や土地柄、関わる人々のこれからの感じていただきたいです。 **ミュージアムディレクター 岡本亮**



岡本亮 株式会社ムサン CDO/現代美術家 CALMA

1996年ロンドン、カンパウエル・アートスクール、1997年セントラル・セントマーティンス・アート&デザインで芸術を学ぶ。1999年IDEESHOP pacific TOKYO企画個人展「moon light tent」、翌年「オオカミにならない犬」を経て英国より帰国。輸入雑貨、オリジナル製品ブランド「EINSHOP (アインショップ)」を創設、総合プロデュースをしながらアーティストとして国内外で数々の作品やイベントを発表。2019年現代美術ブランド「CALMA by Ryo Okamoto」設立。全国の芸術祭、デザインフェアにて活動。2022年兵庫県の老朽施設を独自で開拓し、「都会と自然」を体感できる場、人を育てる拠点「ON THE HILL」を創り出す。

モトコーミュージアム3つのみどころ

1、戦前からの歴史を持つ元町高架下そのものをミュージアム化

モトコー6区画の一部をミュージアムに見立て、当時を伝える建物のなかでアート作品を体験、鑑賞します。ミュージアムそのものも作品として、クリエイターと共につくりあげます。

2、地元兵庫のアーティストやクリエイターが参画

ミュージアムディレクターに加古川市出身のアーティスト岡本亮氏を迎え、氏と交流のあるアーティストや、モトコー周辺に縁とゆかりがあるクリエイターに多数参画いただきます。

3、土地の歴史、記憶、経験を伝えるアート作品

高架下にあるもの、かつてあったものをオマージュした作品など、土地の歴史、記憶からインスパイアされた作品群が並びます。



岡本亮



東條新



野崎将太



西岡潔



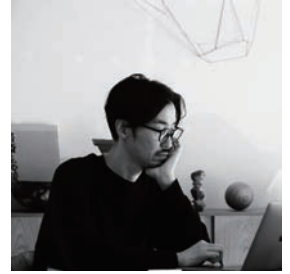
石田真也



吉本冴秀



yokoyama 宇宙



菅野大門

プロデューサー
入川ひでと

ミュージアムディレクター / アーティスト
岡本亮

デザイン
岡本佳代子

参画アーティスト
石田真也、東條新、野崎将太、吉本冴秀、
yokoyama 宇宙、西岡潔

参画クリエイター
菅野大門、山本ひろ

現場サポーター
岡本篤、平沼昌英、米山なつ、河村操、
富真美、惣塚利郎、遠山敦、岡田さち、
藤本リヨ、べっしょいさむ、サニー、
いしどころじ、友井陽子、管靖香、小野 佑真、
たじまこうき

池田義文、樋口侑美、池田真之介、上野佑輔、
武藤頼次郎



ミステリアス
パーティー

7/15

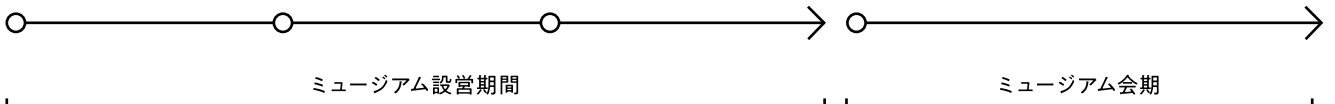
7/30

ミステリアス
ウォーク

8/14・15

ミュージアム
グランドオープン

9/7



お問い合わせ

元高プロジェクト実行委員会
080-3848-1269 (担当浅田)

motoko.pj@gmail.com



web



instagram